

経鼻胃管の挿入について

1. 経鼻胃管とは

経鼻胃管挿入とは、鼻から塩化ビニールや FEP ポリマー製のチューブを胃まで挿入することをいいます。

2. なぜ必要なのか

胃の内容物を出すため（腸閉塞などで胃の中に胃液や腸液がたまっていて吐き気の原因となっている）

胃の内容物の状態を確認するため（吐血（血液みみたいなものを吐いてしまう）したか判断がつかない時）

チューブ（くだ）から薬剤や栄養を直接入れるため

3. 方法

鼻からチューブ（くだ）を挿入し、胃まで通します。チューブ（くだ）挿入後、レントゲン撮影でチューブ（くだ）が正しい位置に挿入されているか確認することがあります。

4. 合併症

経鼻胃管挿入は安全性の高い手技ですが、以下のような合併症（併発症）が起きる可能性があります。まれに合併症に対する治療が必要になることもあります。

これらの合併症が起きた場合には、最善の処置を行います。その際の医療行為は通常の保険診療となり、費用のご負担が生じます。

胃ではなく、気管の中へチューブが挿入されてしまう

消化管を傷つけることによる出血や消化管穿孔

鼻の粘膜を傷つけることによる出血

5. 特別な注意が必要な場合

下記に該当する患者さんは担当医師や担当看護師にお申し出ください。

- 消毒薬（アルコールなど）、局所麻酔薬、ゴム手袋にアレルギーをお持ちの方
- その他、手技に関してご希望、ご不安な点のある方